

報道研究 I

科目ナンバリング SOC-227

選択 2単位

阪本 博志

1. 授業の概要(ねらい)

この授業は、本学科のディプロマポリシーのうち、「社会の問題を発見し、社会を構想することができる」をねらいとするものである。

報道においてメディアから伝達されるのは、情報である。日本においてこの「情報」ということばを、それまでの軍事や機密に限る意味ではなく、「もっとも広い意味でのインフォメーション」としてとらえ、「情報産業」という概念を、今までの産業の代名詞であった「エネルギー産業」の対立概念として考えてみよう(編集後記)という趣旨のもと、『放送朝日』1963年1月号に梅棹忠夫「情報産業論——きたるべき外胚葉産業時代の夜明け」発表された。これは、『中央公論』1963年3月号に再録された。

梅棹忠夫(1920～2010)の活動は、スケールが大きく、著作物也多岐にわたる。この授業では「情報産業論」をまず読んだあと、梅棹のライフヒストリーを学んだうえで、「情報産業論」が収録された文庫本『情報の文明学』の他の論考を読み進めていく。以上から、「情報産業の時代」という観点から当時の社会を構想した梅棹の思想の把握を、こころみる。

受講者には、毎回の講読シートへの記入とその内容を授業中に発言することが求められる。読了後、書評を執筆する。執筆にあたっては、添削指導をおこなう。こうして作成したレポートを提出する。

2. 授業の到達目標

①「情報産業論」をはじめとする梅棹忠夫のテキストの内容ならびにそれが発表された社会的背景を把握することができる。

②「情報産業論」をはじめとするテキストに対する考察・記述を論理的かつ客観的におこなう。このことをとおして、自分の意見を表明する力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

平常点(講読シートの提出) 60%

書評 40%

4. 教科書・参考文献

教科書

梅棹忠夫 『情報の文明学』 中公文庫

5. 準備学修の内容

事前にテキストの指定範囲を読み、ポイント等を講読シートに記入する。

6. その他履修上の注意事項

①受講人数等によって、内容や進度の調整をすることがある。

7. 授業内容

【第1回】 授業の進め方の説明・確認をおこなう。映像資料を視聴する。

【第2回】 『情報の文明学』第Ⅰ部(1)

【第3回】 『情報の文明学』第Ⅰ部(2)

【第4回】 『情報の文明学』第Ⅰ部(3)

【第5回】 『情報の文明学』第Ⅰ部(4)

【第6回】 『情報の文明学』第Ⅱ部(1)

【第7回】 『情報の文明学』第Ⅱ部(2)

【第8回】 『情報の文明学』第Ⅱ部(3)

【第9回】 『情報の文明学』第Ⅲ部(1)

【第10回】 『情報の文明学』第Ⅲ部(2)

【第11回】 『情報の文明学』第Ⅲ部(3)

【第12回】 書評の作成と添削(1)

【第13回】 書評の作成と添削(2)

【第14回】 書評の作成と添削(3)

【第15回】 これまでのまとめ(オンライン)